HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の文法構造 : 動詞 (4)
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 48(1), 21-55
Issue Date	1999-08-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33741
Type	bulletin (article)
File Information	48(1)_PL21-55.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 48-1 (1999)

西フリジア語の文法構造 ── 動詞 (4) ──

清 水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk
── tiidwurd (4) ──

(*The Annual Report on Cultural Science* 48-1 (No. 98). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan 1999. ISSN 0437-6668)

SHIMIZU Makoto (mshimizu@lit. let. hokudai. ac. jp)

§78 受動態 (it passyf, de ûndergeande foarm)

(1) まとめ

受動態は過去分詞とそれを支配する受動の助動詞 wurde で表わす。動詞群は「過去分詞＋受動の助動詞」の語順を基本とし，従属文ではこれを文末 (右枠) に置く。主文では定形の受動の助動詞を第 2 位 (左枠) に置き，文末 (右枠) に置かれた過去分詞とともに枠構造を形成する。動作主 (「…によって」) は 'troch＋名詞句' (文語的には 'fan＋名詞句') で表現する。統語的には主語があるか否かによって「人称受動」(it persoanlik passyf, (2)) と「非人称受動」(it ûnpersoanlik passyf, (3)) に分かれる。ドイツ語では動作を表わす「動作受動」(ド. 過去分詞＋werden) と状態を表わす「状態受動」(ド. 過去分詞＋sein) は形態的に分かれるが，西フリジア語ではオランダ語と同様に，受動態の完了形で受動の助動詞 wurde の過去分詞 wurden を表現しないので，両者は同形になる。ただし，状態受動は統語的には受動態とは言いがたく，たんなる状態表現とみなすほうがいい ((2))。受動態の可否は動作主が想定で

きるか否かという意味的な条件に関係する。また，使役構文の受動化はできるが，知覚動詞構文の受動化はできないなどという制約がある((4))。このほかに，'過去分詞＋krije' による間接目的語の受動化や，'te＋第 2 不定詞＋wêze' による可能・義務の話法的意味を伴う受動態の表現，wurde/wêze 以外のコプラと過去分詞による受動態の表現などがある。'過去分詞＋wêze' は能動態完了形などの場合もあるので，解釈に注意を要する ((5))。

(2) 人称受動

(a) 語形と用法

受動態は動作主の明示を避ける出来事中心の表現に多用される。動作主は特定しがたい場合や明示する必要がない場合には示さない。西フリジア語では不定代名詞の men は話者を含むので (§ 42 (2))，men ではなく，不定代名詞 ien/immen「だれか」や人称代名詞 3 人称複数形 se/hja による能動態の表現が受動態と並んで好まれる。完了形は助動詞 wurde の過去分詞 wurden を省き，'過去分詞＋wêze' となる。

☞ 過去分詞 wurden は東部の方言で用いることがある (Tiersma 1985：77)。
Der *binne* trije skiep *skeard (wurden)*.「羊が 3 頭，毛を刈られた」(Tiersma 1985：111)
Der *is sein (wurden)*.「発言があった(非人称受動)」(Zantema 1984：1210)

第 1 不定詞　未完了：stutsen wurde「刺される」(stekke「刺す」)
　　完　了：stutsen wêze「刺された」
現在形/過去形：wurde の {現在形/過去形} …過去分詞

	現在形		過去形	
ik	wurd	... stutsen	ik	waard ... stutsen
(do)	wurdst	... stutsen	(do)	waardst ... stutsen
hy	wurdt	... stutsen	hy	waard ... stutsen
hja	wurde	... stutsen	hja	waarden ... stutsen

現在完了形/過去完了形：wêze の {現在形/過去形} …過去分詞

	現在完了形			過去完了形	
ik	bin	... stutsen	ik	wie	... stutsen
(do)	bist	... stutsen	(do)	wiest	... stutsen
hy	is	... stutsen	hy	wie	... stutsen
hja	binne	... stutsen	hja	wiene(n)	... stutsen

現在形　It famke *wurdt* troch in mich *stutsen*.「女の子は蚊に刺される」
過去形　It famke *waard* troch in mich *stutsen*.「女の子は蚊に刺された」
現在完了形　It famke *is* troch in mich *stutsen*.「同上」(ULI'S, B6：20)
過去完了形　It famke *wie* troch in mich *stutsen*.「女の子は蚊に刺されていた」

話法の助動詞とともに用いる場合は次の語順になる。

It famke *wol* net troch in mich *stutsen wurde*.「その女の子は蚊に刺されたくないのです」

(b)　その他の用例。

①　動作主を伴う用例

De meanmasine *waard* troch twa hynders *lutsen*.「草刈り機は2頭の馬に引かれた」(lûke「引く」) (ULI'S, C 20：2 変更)

It boek *wurdt skreaun* troch de skriuwer.「その本はその著者によって書かれる」(skriuwe「書く」; 動作主が枠外配置(外置)されている) (ULI'S, A 16：5)

It boek *wurdt* fan him *lêzen*.「その本は彼によって読まれる」(lêze「読む」, fan は文語的) (Boersma/Van der Woude 1981²：40)

②　動作主を伴わない用例

Fryske boeken *wurde* mei subsydzje *útjûn*.「フリジア語の本は助成金を受けて出版される」(útjaan「出版する」) (ULI'S, A 16：13)

By begraffenissen *wurde* soms klokken *let*.「葬儀にはときには鐘が鳴らされる」(liede「鳴らす」) (ULI'S, B 12：17)

Ik wol net yn dy rûzje *behelle wurde*.「私はその喧嘩に巻き込まれた

くない」(behelje「巻き込む」)(Zantema 1984：66)

Mar *ferrifele wurde* se.「しかし，彼らはたぶらかされるのだ」(ferrifelje「たぶらかす」；過去分詞が単独の文成分として前域を占めている)(ULI'S, C 11：6)

③ 完了形の用例

Wannear *is* it hûs *boud*?「その家はいつ建てられたのですか」(bouwe「建てる」)(Bosma-Banning 1981²：84)

Skriuw yn it koart op, wat der *bepraat is*.「話し合われたことを手短に書き出しなさい」(beprate「話し合う」)(ULI'S, C 4：10)

Sûnt 1970 *is* der hiel wat *dien* om it treinferfier rendabeler te meitsjen. Der *is* in automatysk befeilingssysteem *ynfierd*. In protte stasjons *binne ôfbrutsen* en *ferfongen* troch lytse wachthokken.「1970 年以来，鉄道交通の利潤率を高めるためにさまざまなことがなされた。自動安全装置が導入された。多くの駅が廃止され，小さな待ち合い小屋に替えられた」(dwaan「行なう」，ynfiere「導入する」，ôfbrekke「とりこわす」，ferfange「交替する」)(ULI'S, C 19：9 変更)

(c) 状態受動

'過去分詞＋wêze' は動作・行為を表わす受動態の完了形だが，動作・行為の結果として生じた状態が顕著に認められる場合には，結果としての状態に意味的な重点が置かれた表現になることがあり，これを「状態受動」という。状態受動はふつう動作主を伴うことができないことからわかるように，対応する能動態を欠くのであり，統語的には受動態というより，むしろ，wêze をコプラとし，過去分詞を補語 (it stelde) とする状態表現ととらえられる。

① 状態受動だが，場合によっては動作受動の完了形とも解釈できるもの

Op dizze platen *binne* de tiden fan it jier *tekene*.「この図には一年の季節が描かれている」(tekenje「描く」)(ULI'S, A 9：7)

Dy stoel *is* foar jo *ornearre*.「その椅子はあなたのために用意されています」(ornearje「指定する」)(Zantema 1984：734)

Jo *binne* fan herten *útnoege* om dêr by te wêzen.「ご臨席くださいますよう，心からご招待申し上げます(＝あなたは招待されています)」(útnoegje「招待する」)

It berop byldzjend keunstner *is* net *beskerme*.「彫刻家という職業は保護されていない」(beskermje「保護する」) (ULI'S, C 19：22)

② もっぱら状態受動として解釈されるもの

Jûns *is* it swimbad *sletten*.「夜にはプールは閉まっている（＝閉められている」) (slute「閉める」) (ULI'S, B 9：17 変更)

Us lân *is ferdield* yn provinsjes en dy wer yn gemeenten.「私たちの国は州に区分され，それはさらに市町村に区分されています」(ferdiele「区分する」) (ULI'S, C 8：7)

(3) 非人称受動

(a) 語形と用法

統語的に受動態は人称受動と非人称受動に分かれる。人称受動は主語をもち，名詞句目的語を伴う他動詞（it oerbringend tiidwurd）からつくる。非人称受動は主語をもたず，名詞句目的語を伴わない自動詞（it lykhâldend tiidwurd)からつくる。非人称受動は動作主が想定できる動作・行為について可能である。

Der *wurdt* net wer oer dy saak *praat*.「そのことについて二度と話されることはない」(prate「話す」) (Bosma-Banning 1981²：143)

Der *wurdt* thús op ús *wachte*.「家で私たちを待っている人がいる」(wachtsje「待つ」) (Bosma-Banning 1981²：98)

Der *wurdt* fan alles hinne *tôge*.「いろいろなものがそこへ運ばれてくる」(tôgje「運ぶ」) (Bosma-Banning 1981²：123)

Der *wurdt* {*dûnse/songen*}.「{踊りがある/歌が歌われる}」(dûnsje「踊る」, sjonge「歌う」) (Zantema 1984：1210)

(b) 「虚辞の der」(§ 58) の有無

「虚辞の der」は前域で用いるが，中域での使用は一定しない。

By 't foarjier *wurdt der* tige *tsierd*. Mantsjes sykje wyfkes út.「春になると，とてもけたたましい鳴き声が聞こえてくる。雄が雌を求めるのだ」(tsiere「さえずる」) (Bosma-Banning 1981²：123)

By it stjerbêd *waard* ϕ de hiele nacht *wekke*.「臨終の床のもとでは一晩中，人が起きていた」(weitsje「起きている」) (ULI'S, B 15：12)

(4) 受動態の可否

(a) 意味的な条件

意図的に動作・行為を行なう動作主が意味的に想定しにくい表現で受動態が不可能なのは，オランダ語やドイツ語，英語などと同様である(例. kostsje「…の値段がする」，smeitsje「…の味がする」，lykje「似ている」)。

自動詞のなかには，様態を示す形容詞などを伴うことのある同族目的語を支配して他動詞として用いるものがある。この場合の受動態の可否も主語が動作主を表わすか否かによる。

Wy *songen* twa âlde sangen.「私たちは古い歌をふたつ歌った」(sjonge「歌う」)

→ Twa âlde sangen *waarden* (troch ús) *songen*.「古い歌がふたつ（私たちによって）歌われた」(動作主—受動態可)

Hja *stoar* in rare dea.「彼女は奇妙な死を遂げた」(stjerre「死ぬ」) (Boersma/Van der Woude 1980²：40 変更)

→*In rare dea *waard* (troch har) *dreamd*. (非動作主：受動態不可)

Hy *dreamde* in bange dream.「彼は不安な夢を見た」(dreame「夢を見る」) (ib. 40 変更)

→*In bange dream *waard* (troch him) *dreamd*. (非動作主：受動態不可)

(b) 統語的な条件

一例として，使役構文の受動化（「…させられる」）は可能だが，知覚動詞構文の受動化は不可能である。

① 使役構文の受動化：可

De bern *wurde* mar *rinne litten*.「子供たちはただ歩かされる」(rinne

「歩く」) (Zantema 1984：578) (← Wy litte de bern mar rinne.「私たちは子供たちをただ歩かせる」)

② 知覚動詞構文の受動化：不可

*De bern *wurde rinnen sjoen*.「子供たちは歩くのを見られる」(← Wy sjogge de bern rinne.「私たちは子供たちが歩くのを見る」) (sjen「見る」) (Dyk/Hoekstra 1987：14)

(5) その他の構文

これまでに説明した以外の受動態とその関連表現を扱う。

(a) '過去分詞＋krije' など

文法化の度合いは完全とはいえないが，関連した受動態の表現として次の構文が挙げられる。

西フリジア語では英語とは異なって，間接目的語は受動態で主語になれず，非人称受動にとどまる。しかし，'過去分詞＋krije' による構文では，ドイツ語のいわゆる「bekommen 受動」と同様に，能動態で間接目的語（与格）で現われる名詞句が主語になる人称受動が可能である。これは受益者を主語とした受動態の表現である。

De boekjes mei de programs foar de nije kursussen kinst fergees *tastjoerd krije*.「君は新しいコースのプログラがついた冊子をただで送ってもらうことができる」(tastjoere「(人に物事を) 送る」) (ULI'S, B 19：26)

In groepke fan fjouwer of fiif minsken *kriget* in tal foarwerpen *taskikt*.「4人または5人のグループが一定の数の課題をあてがわれる」(taskikke「(人に物事を) あてがう」) (ULI'S, B 19：26)

次の '過去分詞＋fine' は動作主を主語としながら，同時に意味的に受動態を含んだ表現と言える。

Hjirby *ynsletten fine* jimme wer de jierlikse akseptgirokoart foar de stipe.「例年どおり年会費振込用紙をここに同封してあるのがご覧いただけると存じます」(ynslute「同封する」)

Yn de hjir folgjende list *fynt* de brûker ta syn geriif de measte sterke en ûnregelmjittige Fryske tiidwurden by inoar *brocht*.「以下に続くリストにおいて利用者は必要とする限りほとんどのフリジア語の強変化および不規則変化動詞が収録されているのがわかる」(bringe「もたらす」)(Stienstra 1975：1)

(b) te-第2不定詞＋wêze

受動の可能・義務の意味を表わす。他動詞について用いる。

Dy't net *te rieden is*, *is* net *te helpen*.「忠告を聞かない者は助けられない（＝忠告され得ない者は助けられ得ない」(Zantema 1984：814)

De gefolgen fan dy nije foarskriften *binne* dûdlik *te sjen*.「その新しい規定の結果ははっきり観察され得る」(ULI'S, C 14：13)

De antwurden *binne te finen* op it antwurdblêd.「答は解答のページに出ている（＝見いだされ得る)」(ULI'S, B 19：5)

(c) wêze/wurde 以外のコプラによる受動態の表現

wêze/wurde は受動の助動詞であると同時に，主語と補語を連結するコプラの代表である。wêze は状態，wurde は変化を示す純粋のコプラと言えるが，動詞固有の意味をあわせもちながら，コプラと同等の機能を果たす例として次のようなものがある（状態のコプラの例)。

Syn miening *stiet* fêst.「彼の意見はしっかりしている」(stean「…である，立っている」)(Zantema 1984：969)

It seal *sit* te heech, Jan kin net by de trapers.「サドルが高すぎる。ヨンはペダルに足が届かない」(sitte「…である，すわっている」)(ULI'S, A 18：17)

Dat *leit* him nei oan it hert.「そのことは彼にはとても気になっている」(lizze「…である，横たわっている」)(Zantema 1984：579)

De ko *bliuwt* sûn.「雌牛はあい変わらず元気だ」(bliuwe「とどまる」)(ULI'S, C 19：28)

It hûs *liket* âld.「その家は古そうだ」(lykje「…のように見える，似ている」(ULI'S, C 19：28)

こうしたコプラは過去分詞を補語として，wêze を助動詞とする状態受動の意味を表わすことがある。

Yn Feanwâlden stiet de 'Skierstins', de iennichste stins dy't ût 'e Midsieuwen *bewarre bleaun is*.「フェアンヴォーデン(オ．Veenwouden ヴェーンヴァウデン) には中世から残っている貴族の館である『スキエルスティーンス』がある」(bewarje「保つ」) (ULI'S, B 17：21 変更)

Eartiids *leine*, foaral by 't hjerst en by 't winter, de doarpen *isolearre*.「以前はとくに秋と冬の間は村々は隔絶されていた」(isolearje「隔てる」) (ULI'S, C 1：7)

It muzykkorps stiet al klear en de fersierde weinen *steane* ek *opsteld*.「音楽隊はもう待機しており，飾りをつけた車もとまっている」(opstelle「駐車する，配置する」) (ULI'S, A 17：7)

(d) wêze＋過去分詞

この形式は受動態とまぎらわしい場合がある。

① wêze 支配の自動詞の能動態完了形

Jo wachten oant de boargemaster *útsprutsen wie*.「あなたは市長が話し終わるまで待っていた」(útsprekke「話し終わる (wêze 支配の自動詞)」) (ULI'S, C 8：5)

⇔ In rêde *is* troch de boargemaster *útsprutsen*.「演説が市長によってなされた (受動態完了形)」(útsprekke「(物事を) 表明・発音する (他動詞)」)

De loft *is berûn*. Miskien wol it wol reine.「空が曇っている。もしかしたら雨が降るかもしれない (能動態完了形)」(berinne「曇る (wêze 支配の自動詞)」)

⇔ De stêd *is* yn ien oere *berûn*.「その町は 1 時間で走破された (受動態完了形)」(berinne「(物事を) 走破する (他動詞)」)

It tal byldzjende keunstners yn Fryslân *is* sûnt 1970 *ferdûbele*.「フリースラントの彫刻家の数は 1970 年以来，倍になった (能動態完了形)」(ferdûbelje「倍になる (wêze 支配の自動詞)」(ULI'S, C 19：22)

⇔「フリースラントの彫刻家の数は 1970 年以来，倍にされた（受動態完了形）」（ferdûbelje「（物事を）倍にする（他動詞）」）

☞ オランダ語でも「倍になる」の意味では zijn 支配の自動詞 verdubbelen を用いるが，ドイツ語では再帰動詞 sich verdoppeln を用いることに注意。フ．feroarje「変わる（wêze 支配の自動詞）」－オ．veranderen「同左（zijn 支配の自動詞）」－ド．sich (ver-)ändern「同左（再帰動詞）」も同様。

② 状態再帰（§ 80 (3)(d)）

再帰動詞も状態の表現としてこの語形を用いる。

Jo *binne* wat waarmer *klaaid*.「あなたは少し暖かめの服装をしている」（jin klaaie「服装をする」）（Bangma 1993²：136）

③ 形容詞化した過去分詞

i）意味的に対応する動詞がないもの

Wat *is* dêr eins *ferkeard* oan?「それについて，いったい何が間違っているのか」（ferkeard「間違っている（形容詞）」⇔ ferkeare「変わる，付き合う」）（ULI'S, C 3：7）

Hy stie *bekend* as in nuver man.「彼は変人として通っている」（bekend「周知の，有名な（形容詞）」⇔ bekenne「認める，告白する」（Bosma-Banning 1981²：101）

ii）意味的に対応する動詞があるが，形容詞として定着しているもの

It tal ôfnimmers fan it wurk fan de measte keunstners *is* tige *beheind*.「大多数の芸術家の作品の買い手はひじょうに限られている」（beheind「制限された（形容詞）」⇔ beheine「制限する」）（ULI'S, C 19：22）

Juster *wiest* al *ferkâlden*.「昨日，あなたはもう風邪をひいていたのよ」（ferkâlden「風邪をひいた（形容詞）」⇔ ferkâldzje「風邪をひく（wêze 支配の自動詞）」）（ULI'S, A 6：8 変更）

次の用例では形容詞と動詞の意味的な相違が現われている。

Sy *is* net sa lang *troud*.「彼女は結婚してからそれほどたっていない」（troud「既婚の（形容詞）」（ULI'S, A 12：8）

Letter hie er foar it ferstân krige dat hja har libben lang net *troud*

west hiene.「後に彼は彼女が生涯未婚だったことを知った」(troud「既婚の（形容詞)」(Bosma-Banning 1981²：89)

⇔ Trije jier lyn *binne* wy *troud*.「3年前に私たちは結婚した（能動態完了形)」(trouwe「結婚する（wêze 支配の自動詞)」) (ULI'S, A 20：4)

次の用例では形容詞と受動態の動詞が同じ意味を表わしている。

Simke Kloosterman *is* yn 1876 te Twizel *berne*.「シムケ・クローステルモンは1876年にトヴィーゼル（オ. Twijzel　トヴェイゼル）で生まれた」(berne「生まれた（形容詞)」) (Stienstra 1982：96 変更)

⇔ Eeltsje Halbertsma *waard* ek te Grou *berne*.「エールチェ・ホルベツマもグラウ(オ. Grouw　フラウ)に生まれた」(bernje「生む」) (ib. 56 変更)

dien「用意ができた，すんだ，終わった」は dwaan「する」の過去分詞と同形だが，形容詞として定着しており，様々な用法がある。

dien meitsje「完成する」，dien (wurk) {jaan/krije}「解雇 {する/される}」

It wurk *is dien*.「仕事はすんだ」(Zantema 1984：176)

It *is* mei ús *dien*.「私たちの友情は破綻した」(ib. 176)

Hast it al heard tink, 'k ha *dien krige* by de baas.　It wurk is op.「もう聞いたかもしれないけどさ，上司に首にされちまったよ。仕事は無しだ」(ULI'S, C 13：13)

Nei *dien* wurk is 't noflik rêsten.「人事を尽くして天命を待つ（＝なされた仕事の後は気持ちよく休むことだ。ことわざ)」(Beintema 1990：27)

§79　使役動詞 (it kausatyf tiidwurd)

(1)　litte

代表的な使役動詞は litte であり，第1不定詞を伴って枠構造をつくる。litte は意味的に「許容・放任」と「強制」に大きく分かれる。

(a) 許容・放任：「…させてやる，…させておく」

Lit my dat mar *dwaan*.「いいから私にそれをさせてください」(Zantema 1984：578)

De boeren *lieten* de ierappels *waakse*.「農民はじゃがいもを育てた」(＝生育させた)」(ULI'S, B 10：17)

Ik ha 't op 'e gong *stean litten*.「私はそれを廊下に置いたままにした」(ULI'S, A 1：8)

Lit dyn goede dagen dy net *ûntkomme*!「君の良き日々をのがさないようにしなさい」(Beintema 1990：25)

使役の助動詞以外の用法では litte はこの意味，または「断念，放棄，遺棄」の意味で用いる。

Lit dat!「それはやめておきなさい」(Zantema 1984：578)

Hjir *lit* men wat en dêr fynt men wat.「ここで何かを捨てる者もいれば，あちらで何かを見つける者もいる(ことわざ)」(Beintema 1990：30)

As dwaan net doocht, is *litten* better.「してもむだなときには，しないほうがいい（ことわざ)」(Beintema 1990：30)

(b) 強制・要請：「…させる（＝…するように命じる・頼む)」

Dat *lit* my *tinke* oan earder.「それは私に昔のことを思い出させる」(Zantema 1984：578)

被使役者が受動態の動作主を示す 'troch＋名詞句' として表わされることもある。

Lit it ferhaaltsje *lêze troch* de kursuslieder.「その話を講師の先生に読んでもらいなさい」(ULI'S, B 19：18 変更)

Lit it ferhaal *beoardielje troch* in oare kursist.「その話を別の受講者に判定してもらいなさい」(ULI'S, B 19：18)

被使役者が示されないこともある。次の用例は特定の被使役主を明示するものではなく，sjen litte が「示す，見せる」(←見させる) という意味のひとつの他動詞を形成しているとも言える。witte litte「知らせる」，hearre litte「教える」(←聞かせる) もこれに属する。

It plaatsje fan 'e hjerst *lit* in bosk *sjen*.「その秋の図は森を示しています」(ULI'S, A 9：7)

このような場合には，動作主を示す troch のかわりに受益者を示す oan を用いることがある。

Lit jo advertinsje *sjen oan* ien dy't Frysk skriuwe kin.「あなたが作った広告をフリジア語が書ける人に見せなさい」(ULI'S, A 14：8)

(c) 勧誘の lit us ...：「…しましょう」

Lit ús bidde.「祈りましょう」(Zantema 1984：578)

Lit ús der earst mar ris in nacht oer sliepe, seit mem. Moarn prate wy fierder「そのことはまず，一晩寝てからにしましょうと母は言う。明日，また話すことにしましょう」(ULI'S, A 2：14)

☞ 英語の 'let's ...'，ドイツ語の '{laß/laßt/lassen Sie} uns ...' がこれにあたる。オランダ語では 'laten we ...' を用いる。西フリジア語では 'litte wy ...' はオランダ語の影響として好ましくないとされる。

(2) その他の表現

(a) dwaan

'第 2 不定詞＋dwaan' はオランダ語の 'doen＋不定詞' と異なって，使役の助動詞として用いることはあまりない。次の用例は慣用句的な表現として固定している。

Dat *die* my *tinken* oan jo.「それは私にあなたのことを思い出させる」(ib. 44)

次の 'te-第 2 不定詞＋dwaan' の用例も同様である。

Ik *doch* jo *te witten*.「私はあなたに知らせる」(Boersma/Van der Woude 1980²：44)

'it docht bliken dat＋従属文' も「…が明らかになる」という意味の慣用句的な表現である (blike「…のように見える」)。

Doe't Piter grutter waard *die it bliken dat* er oars wie as oare bern.「ピテルは大きくなると，自分がほかの子供たちとは違っていることがわ

かった」(Bosma-Banning 1981²：39)

'it dwaan+dat-従属文' も使役の意味を表わすことがある。

Dat *docht it dat* hja net doar.「そのために彼女はやる勇気がない（＝それが彼女がやる勇気をなくさせる)」(Visser 1985：416)

(b) meitsje

meitsje も 'dat-従属文' を伴って使役の意味を表わすことがある。

Dat *makket dat* hja net doar.「同上」(ib. 416)

☞ オランダ語でも同様の意味で 'maken+dat-従属文' を用いることがある。しかし，これは使役の意味だけに用いるわけではない。

Ik *meitsje dat* ik yn myn skultinte kom.「私は隠れ小屋に来るようにする」(Bosma-Banning 1981²：150)

次の用例を比較。

In stien *liet* him *stroffelje*.「彼は石につまずいて転んだ（＝石が彼をつまずいて転ばせた)」(Visser 1985：151)

☞ オ. Een steen *deed* hem *struikelen*.「同上」(ib. 151)

In stien *makke dat* er stroffele.「同上」(ib. 151)

In stien *die it, dat* er stroffele.「同上」(ib. 151)

§80 再帰動詞 (it weromwurkjend tiidwurd)

再帰動詞・再帰構文の分類，人称代名詞の再帰的用法，sels の付加についてはすでに「§39 人称代名詞の再帰的用法」で述べた。以下では用例の追加と補足的説明にとどめる。

(1) 本来的な再帰動詞

(a) もっぱら再帰動詞として用いるもの

感情・感覚・思考など，人の心理状態を意味するものが多い。

Ik *skamje my* sa, ik ha beppe har presintsje fergetten.「本当に恥ずかしい。おばあさんにあげるプレゼントを忘れてきてしまった」(jin skamje「恥じる」) (ULI'S, B 18：11)

Hawwe jo *jo fersind*?「あなたは思い違いをしたのですか」(jin fersinne

「まちがえる」) (Bosma-Banning 1981²：13)

De minske sil *him* wer *ferwûnderje* kinne moatte oer alles wat der om him hinne bart.「人間は再び自分の周りで起こることに驚きを覚えることができなければならないだろう」(jin ferwûnderje「感嘆する」) (ULI'S, C 9：15 変更)

Him ferfiele die er nea.「退屈するなどということは彼はけっしてなかった」(jin ferfiele「退屈する」) (Bosma-Banning 1981²：39)

このほかに jin besauwe「ひどく驚く」, jin beriede「熟考する」などがある。

この種の再帰動詞は他の目的語を支配しないことから, sels の付加による意味的な対比の強調ができないことは§ 39 (4)で述べた。

Ik *skamje* {*my*/**mysels*} sa.「私はとても恥ずかしい」

ただし, 次のような固定した表現を除く。

Dat *skammet* {**him*/*himsels*}.「それはひどすぎる」(dat は物事を指す) (Zantema 1984：879 変更)

(b) 他動詞としても用いるが, 意味的に対応しないもの

De bern *fermakken har* as mosken yn it sân.「子供たちはスズメのようにはしゃいで砂遊びをした」(jin fermeitsje「楽しむ」⇔ eat fermeitsje「作り直す, 遺贈する」) (Bosma-Banning 1981²：124)

It lânskip *liende him* goed ta in fytstocht.「その景観はサイクリングする価値が十分にあった」(jin liene「…の価値がある」⇔ eat liene「借りる」) (ULI'S, B 20：22)

Binne jo ien, dy't *him* net om soksoarte uterlikheden *bekroadet*?「あなたはその種の外見を気にしない人々のひとりですか」(jin bekroadzje「気にかける」⇔ eat bekroadzje「お膳立てする」) (ULI'S, C 4：9 変更)

(2) 他動詞の再帰的用法

対応する自動詞を欠く場合, 本来は他動詞であるものを再帰的に用いて, 自動詞化の役割をはたすことがある。

Foar it hillige moat men *jin hoedzje*.「聖なるものには気をつけなければならない」(jin hoedzje「(人が) 用心する」⇔ immen hoedzje「(人を) 保護する」) (Bosma-Banning 1981²：137 変更)

Hy *stekt him* oan in stikel.「彼はアザミの針に刺される」(jin stekke「刺される (＝自分を刺す)」⇔ immen stekke「(人を) 刺す」) (ULI'S, C 9：15)

Dy broek *hâldt him* goed.「そのズボンは長持ちする」(jin hâlde「持ちこたえる」⇔ eat hâlde「(物事を) 維持する」) (Zantema 1984：368)

Jo sitte op in frije dei leaver thûs? Dan kinne jo *jo ûntspanne* yn 'e tún.「休日は家にいるほうがいいですか。それなら庭で息抜きすればいいですね」(jin ûntspanne「休養する」⇔ immen ûntspanne「(人の) 緊張を解く」) (ULI'S, C 5：15)

(3) その他

(a) 利害・所有を表わす名詞句を再帰的に用いるもの (§ 31 (5))

本来，動詞の目的語ではない利害・所有を表わす名詞句を再帰的に用いるもので，目的語が 2 つ重なる。

Hy *skuorde him* de bûsen *út*.「彼は財布をはたいた (＝ポケットを引き裂いた)」(jin de bûsen útskuorre「(自分の) 財布をはたく」⇔ eat útskuorre「(物を) 引き裂く」) (ULI'S, C 4：5)

(b) 結果・状態を表わす文成分を伴うもの

① 結果を表わす文成分を伴うもの (§ 39 (2)(b))

Hy *die him sear* oan in skerp stientsje.「彼は尖った石でけがをした」(jin sear dwaan「けがをする」) (Bosma-Banning 1981²：61)

自動詞もこの用法では再帰的に用いた人称代名詞を伴って，「小節」(エ. small clause) をつくることがある。

De minsken *laken har slop*, doe't de fierljepper yn de feart foel.「人々はフィエリエペン (＝棒にまたがって水路を飛び越し，距離を競うフリースラントの伝統的なスポーツ) の選手が水路に落ちると大笑いした」(jin

slop　laitsje「(体がだるくなるまで) 大笑いする」← laitsje「笑う」) (ULI'S, B 15：12)

② 状態を表わす文成分を伴うもの

Jo *fiele jo thús* by Albert.「あなたはオルベトのもとでくつろげます」(jin ... fiele「自分が…と感じる」) (ULI'S, C 3：17)

Hy *wit him Fries*.「彼はフリジア人であることを自覚している」(jin ... witte「自分が…であると心得ている」(Zantema 1984：1198)

Se *tochten har* dêr *feilich*.「彼らはそこにいれば安全だと思った」(jin ... tinke「自分が…だと思う」) (ULI'S, C 9：9)

(c) 代名詞を欠く再帰動詞の用法

名詞的に用いた第2不定詞では再帰動詞が代名詞を欠く場合がある。

Fersinnen is mooglik, sei de man tsjin 't wiif, doe hie er de faam patte.「間違いはあるものさ，と男は妻に言ったが，そのときすでに女の子にキスしていた」(jin fersinne「まちがえる」) (Zantema 1984：261)

(d) 状態再帰

結果としての状態が意味的に顕著に認められる再帰動詞では，'過去分詞＋wêze' の形式で状態再帰が可能である。

de namme, dêr't ik ûnder *ynskreaun bin*「私が（その名前で）登録した名前」(jin ynskriuwe「登録する」) (ULI'S, B 19：25)

Binne jo wol neffens de nijste moade *klaaid*?「あなたは最新の流行の服を着ていますか (＝流行に従った身なりをしていますか)」(jin klaaie「服装をする」) (ULI'S, C 4：9)

(e) 再帰動詞の使役化

再帰動詞は使役動詞に支配されることがある（使役動詞の再帰化は不可)。不利益を表わす場合には日本語の「迷惑の受け身」と似た意味になる。

Wy *litte ús* net *bekeapje*!「我々は一杯食わされないぞ」(bekeapje「償う，支払う」) (Bangma 1993²：69)

De iene sil *him* gauwer as de oare *ferliede litte* om in nagelnije útmeunstering oan te skaffen, as ús dat foarskreaun wurdt.「ファッ

ションで決められた真新しいサンプルを手に入れようと，人々は我先にそそのかされることになる」(ferliede「誘惑する」) (ULI'S, C 4：9)

Foar de oant no ta lêste Alvestêdetocht hienen *har* mear as tsientûzen dielnimmers *ynskriuwe litten*!「これまでのオルヴェステーデトホト（＝フリースラントの 11 の都市をめぐる伝統的なスケート競技）には１万人以上の参加者が登録している」(ynskriuwe「登録する」) (ULI'S, B 5：7)

"De grutte krûdeniers *litte har* mar by de foarnamme *neame*." "Allegear polityk fansels. Foar de sfear."「大きな店は自分の店をファースト・ネームで呼ばせるのよ」「もちろん，まったくの企業戦略さ。アットホームな感じがするからね」(neame「名づける」) (ULI'S, C 3：17)

him tinke litte「考えられる，明らかだ」という表現に注意。

It *lit him tinke*.「それは自明だ」(Zantema 1984：1053)

§ 81　非人称動詞 (it ûnpersoanlik tiidwurd)

非人称動詞についてはすでに「§ 37 (5)　非人称構文」で述べた。以下では天候動詞を中心に用例の追加と補足的説明にとどめる。

(1)　天候動詞

(a)　種類

it reint.「雨が降る」(reine)

it spielt「土砂降りだ」(spiele)

it {miggel(e)t/sto(f)reint}「霧雨が降る」(miggelje/sto(f)reine)

it waait「風が吹く」(waaie)

it {rûst/rûzet}「風がそよぐ，ざわめく」(rûze/rûzje)

it twirret「つむじ風が吹く」(twirje)

it stoarmet「嵐だ」(stoarmje)

it tonger(e)t「雷が鳴る」(tongerje)

it bliksem(e)t「稲光がする」(bliksemje)

it snijt「雪が降る」(snije)

it krôket「小雪が舞う」(krôkje)

it wisket「吹雪く」(wiskje)

it friest「霜が降りる，凍てつく」(frieze)

it winter(e)t「冬になる」(winterje)

it simmer(e)t「夏になる」(simmerje)

(b) 用法

① 人を表わす名詞句・代名詞を伴った心理・生理の表現

Heit soe in slach om 'e buorren dwaan, mar it frear *him* tefolle.「父は近所に散歩にでかけようとしたが，寒くてたまらなかった」(ULI'S, B 8：10)

② 近接未来の表現での wolle の用法（sille も可。§ 77 (1)(e)④)

It *wol* ek wolris reine.「ひと雨来そうだ」(ULI'S, A 9：9)

③ 様態や程度を表わす副詞的に用いた名詞句を伴う表現

It frear fannacht *tsien graden*.「昨夜は零下10度まで下がった」(Bosma-Banning 1981[1]：127)

It friest *bakstiennen*.「しばれる寒さだ（＝煉瓦が凍るほど寒い)」(Zantema 1984：47, 312)

It reint *balstiennen*.「大雨だ（＝砂利が降るほど雨が降っている)」(Zantema 1984：48, 806)

It reint op 't heden *promoasjes* binnen de Fryske Akademy, en de taalkundige sektor spilet dêryn net swak by.「目下のところ，フリスケ・アカメデミーの内部では博士号取得が相次いでおり，言語学部門がそのさいに少なからぬ役割を果たしている」(Ut de Smidte, 31e jiergong nû. 4, desimber 1997：7)

④ ③と同様の意味で副詞的に用いた dat-従属文を伴う表現

It friest *dat it ongel(e)t*.「しばれる寒さだ（＝つららができるほど寒い)」(Zantema 1984：312, 714)

(2) 'it is ...' による天候の表現

(a) 種類

it is {kâld/wetterkâld}「{寒い/雨模様で寒い}」
it is {hjit/hyt}「暑い」
it is koel「涼しい」
it is waarm「暖かい」
it is {soel/near}「蒸し暑い」
it is rûzich「風が強い」
it is blakstil「風がない」
it is myld「穏やかな天気だ」
it is {mistich/dizich}「霧が出ている」
it is buiïch「変わりやすい（にわか雨の）天気だ」
it is wiet「雨がちの天気だ」
it is dampich「じめじめした天気だ」
it is skier「曇天だ，灰色の空だ」
it is droech.「雨が降っていない」
it is sinneskynwaar「快晴だ」
it is teiwaar「雪解けの天気だ」
it is {moai/knap} waar「良い天気だ」
it is {min/striemin} waar「{悪い/最悪の} 天気だ」
it is near waar.「蒸し暑い天気だ」

(b) 用例

It wie in heldere nacht want de moanne skynde ût in himel sûnder wolken.「明るい夜だった。月が雲のない空から照っていたからである」(ULI'S, B 20：15)

It wurdt wer *maitiid*.「また春になる」(ULI'S, B 2：23)

Ik fyn *it* hjir *kâld*.「私はここは寒いと思う」(ULI'S, B 7：21)

(3) その他の表現

(a) 状況など

Hoe *is it* mei dyn broer?「お兄さん(弟さん)の調子はどうだい」(ULI'S, B 15：21)

It siigde ôfgryslik troch it finster.「窓からひどく雨漏りがする」(sige「雨漏りがする」)(ULI'S, B 2：23)

"Wêr wolst hinne?" "Net nei de buorren. Dêr *is it* my te drok."「君はどこへ行きたいんだ」「村の中心はだめだ。あそこはあまりにせわしない気がする」(Bosma-Banning 1981²：21)

(b) 心理・生理

Mar djip yn syn hert *begrutte it him* wol om it bist.「しかし，心の底では彼にはその動物が哀れに思えた」(begrutsje「哀れに思える」)(Bosma-Banning 1981²：27)

It muoit my, mar se kinne net komme.「残念ですが，彼らは来られません」(muoie「残念に思える」)(Bosma-Banning 1981²：113)

§82 態にかんする語彙的表現

(1) まとめ

態にかんする一連の注意すべき語彙的な表現がある。西フリジア語では他動詞の再帰的用法によって他動詞を自動詞化することがあるが(§80(2))，そのほかに，自動詞と他動詞が同じ語で表現されることがある。このとき，自動詞の主語は他動詞の目的語に相当するものになり，動作主以外の意味をもつことが多い。この種の自動詞は主語の性質を示す状態表現か，個々の出来事を示す移行表現かに大きく分かれるが，前者を「中間態動詞」，後者を「能格動詞」と呼んで区別する。中間態動詞では状態に関与する不特定の表現されない動作主が想定される場合が多く，受動態の意味がより明確に表現される。一方，能格動詞は自然に起こる現象を指すことが多く，動作主は想定しにくい。以下の説明では代表的な用例を挙げるにとどめる。

(2) 中間態動詞（エ．middle verb）

動作主を主語とする同形の動詞が存在し，意味的に動作主の影響を顕著に受ける文成分が主語として現われる状態表現の自動詞などを指す。西フリジア語には他動詞の目的語以外の名詞句が主語になるものもあり，非人称の中間態動詞も存在する。ふつう様態を示す副詞的な文成分を伴って主語の性質を述べ，個々の具体的な出来事は示さない。形態的には能動態だが，受動態の意味を表わし，特定の動作主は表現されない。

(a) 対応する他動詞の目的語が主語になるもの

No, dat *heart* nochal earnstich.「あら，それはお聞きしたところ，かなり深刻ね」(hearre「(物事が) …のように聞こえる（中間態動詞)」⇔「(人が物事を）聞く（他動詞)」) (Bangma 1993²：67 変更)

Alles *fielde* wiet.「触ると何もかも濡れていた」(fiele「(物事が) …という感触だ（中間態動詞)」⇔「(人が物事に）触る（他動詞)」) (ULI'S, A 6：8)

De romte *mjit* likernôch 2,40 × 3,00 meter.「その空間はおよそ 2.40×3.00 メートルの広さがある」(mjitte「(物事が）測ると…の数値がある（中間態動詞)」⇔「(人が物事を）測る（他動詞)」) (ULI'S, B 2：15)

De tee *skinkt* {brún/swart/goed}.「そのお茶は {注ぐと {茶色/黒} になる/注ぎやすい}」(skinke「(物事が）注ぐと…である（中間態動詞)」⇔（人が物事を）注ぐ（他動詞)」) (Zantema 1984：892)

It fleis *snijt* maklik.「その肉は簡単に切れる」(snije「(物事が）切れる（中間能動詞)」⇔「(人が物事を）切る（他動詞)」)

(b) 対応する他動詞目的語以外の文成分が主語になるもの

Dy fyts *sit* goed.「その自転車は乗り心地がいい」(sitte「(物事が) …というすわり心地がする（中間態動詞)」⇔「(人が物事の場所に）すわる（自動詞)」) (Zantema 1984：870)

De bern wolle elk in sliepkeamer. Dat *sliept* lekker, sizze se.「子供たちは各自寝室をほしがる。そのほうがよく眠れると言う」(sliepe「(物事が) …という寝心地がする（中間態動詞)」⇔「(人が物事の場所で)

眠る（自動詞）」(ULI'S, A 2：9 変更)

(c) 非人称中間態動詞

自動詞から非人称動詞に転用して中間動詞として用いるものがある（§ 37 (5))。場所などを示す副詞的な文成分について一般的な性質や評価を述べる。

It sit hjir noflik.「ここはすわり心地がいい」(sitte「…というすわり心地がする（非人称中間態動詞）」⇔「(人が場所に）すわる（自動詞）」) (Visser 1985：904)

It wennet hjir goed.「ここは住み心地がいい」(wenje「…という住み心地がする（非人称中間態動詞）」⇔「(人が場所に）住む（自動詞）」) (Zantema 1984：1172)

Wy moatte mar wer oerein, *it sit* hjir wol, mar *it wennet* hjir net.「じっとしている場合ではない。まだやることがたくさん残っている(＝私たちは再び立ち上がらなくてはならない。ここは一時的にすわるところではあるが，定住するところではない)」(同上) (Zantema 1984：870)

第 2 不定詞として次のような構文で用いることもある。

In protte minsken meie hjir net wenje. No, *it is* hjir goed *wenjen* fine wy.「ここには住みたがらない人が多いが，それでも，ここは住みやすいとわしらは思うよ」(同上) (Bangma 1993²：80)

次の構文を比較。

Hy *sit* yn in leunstoel.「彼は安楽いすにすわっている」

Dy leunstoel *sit* noflik.「その安楽いすはすわり心地がいい」

Yn dy leunstoel *sit it* noflik.「同上」

Yn dy leunstoel *is it* noflik *sitten*.「同上」

(3) 能格動詞（エ. ergative verb)

(a) 用　法

意味的に他動詞の目的語にあたる被動作主が主語として現われている自動詞で，個々の具体的な出来事を表わすものを指す。運動や状態の変化を示す移行表現の場合が多く，完了形はふつう wêze 支配である。この場合，他動詞

の受動態完了形と同形になるので，あいまいさが生じることがある（次の用例では能格動詞の完了形と解釈する）。

Dat glês *is brutsen*.「そのガラスは割れた」(brekke「割れる，こわれる（能格動詞）」) (Visser 1985：116)

⇔Hja *brekt* de faas.「彼女は花瓶を割る」(brekke「割る，こわす（他動詞）」) (Boersma/Van der Woude 1981²：40 変更)

De planke *is spjalt* fan droegens.「板は乾燥したために割れた」(spjalte「割れる（能格動詞）」) (Zantema 1984：954)

⇔Hy *hat* de planke *spjalt*.「彼は板を割った」(spjalte「割る（他動詞）」)

It iten *is bedoarn*.「食べ物が腐った」(bedjerre「腐る（能格動詞）」) (ULI'S, B 11：25)

⇔Us takomst *is bedoarn*.「私たちの将来は損なわれた」(bedjerre「損なう（他動詞）」) (Zantema 1984：59)

De broek *is skroeid*.「ズボンに焦げた跡がある」(skroeie「焦げ目がつく（能格動詞）」) (ULI'S, C 4：5)

⇔Hy *hat* it guod by de kachel *skroeid*.「彼はその品物を暖炉のそばで焦がした」(skroeie「焦げ目をつける（他動詞）」) (Zantema 1984：908)

次の用例は人と物事が主語になる能格動詞の例である。

Nei in pear dagen *wiene* hja al aardich *wend* yn it nije hûs.「二，三日のうちに彼らは新しい家にもうすっかり慣れた」(wenne「(人が)慣れる（能格動詞）」) (Zantema 1984：1173)

Wenst deroan.「君はそれに慣れるよ」(同上) (Visser 1985：870)

Ik hoopje dat it gau *went*.「私はそれが早く軌道に乗ることを願っている」(wenne「(物事が)慣れる，軌道に乗る（能格動詞）」) (ULI'S, A 13：8)

Alles *went*.「すべては慣れていくものだ」(同上) (Zantema 1984：1173)

⇔Hy koe de kat net *wenne*.「彼はその猫を慣らすことができなかった」(wenne「(人が物事を) 慣らす（他動詞）」)

(b) 中間態動詞と能格動詞をあわせもつもの

同一の動詞でも，表現されない不特定の動作主が想定される性質の表現か，動作主が想定されない自然に起こる個々の移行現象の表現かによって，それぞれ中間能動詞と能格動詞の機能をあわせもつことがある。

i）skowe「動かすと…だ（中間態動詞）」「動く（能格動詞）」「動かす（他動詞）」

Dy fyts *skoot* swier.「その自転車は重くて走りにくい」（中間態動詞）（Zantema 1984：903）

Yn ûnôfhinklike sinnen *skoot* yn alle Germânske talen (ûtsein it Ingelsk) it tiidwurd nei de twadde posysje yn 'e sin.「主文ではすべてのゲルマン語で（英語を除いて）動詞が文の2番目の位置に移動する」（能格動詞）（Hoekstra 1997：75）

Hy *hat* de karre oan 'e kant *skood*.「彼は台車をわきに動かした」（他動詞）

ii）rekke「のばすと…だ（中間態動詞）」「のびる（能格動詞）」，(ût-) rekke「のばす（他動詞）」

Dat lear *hat* altiten maklik *rutsen*.「その革はいつも簡単にのびた」（中間態動詞）

It ilastyk *is* ûnder dat gewicht aardich *rutsen*.「ゴムは重みでひどくのびた」（能格動詞）（Zantema 1984：808）

Hy *hat* dat lear {*útrutsen*/**rutsen*}.「彼は革をのばした」（他動詞）

(4) その他の場合

主語名詞句が人を表わすものと物事を表わすものに交替することによって，動詞の意味が態に関連した変化を示すものがある。少数の例を示すにとどめる。

(a) 自動詞が他動詞と同形でありながら，中間態動詞とも能格動詞とも異なるもの

① lizze

i）「横たわっている，（物事が人にとって）…である（自動詞）」

De Ljouwerter Krante *leit* op 'e tafel.「リャウエテル・クロンテ（＝フリースラントの代表的な新聞。オランダ語名 Leeuwarder Coerant）がテーブルの上にある」(ULI'S, A 2：9)

Dat wurk *leit* him net.「その仕事は彼には向かない」(Zantema 1984：579)

ii)「横たえる（他動詞）」

Men moat net alle aaien ûnder ien hin *lizze*.「すべての卵を1羽のめんどりの下に置いてはいけない（＝すべての命運をたったひとつの機会に賭けてはいけない。ことわざ)」(Beintema 1990：9)

☞ 歴史的には古フ. lidza（自動詞)，ledza（他動詞）のように異形だったが，その後の音韻変化によって同形になった。

② liede

i)「(鐘が）鳴る（自動詞)」

Foarhinne *letten* de klokken trije kear deis.「以前，鐘は一日に3回鳴っていた」(自動詞）(ULI'S, B 20：7)

ii)「(鐘を）鳴らす（他動詞)」

Juster *hat* de koster de klokken *let*.「昨日，教会の番人が鐘を鳴らした」(他動詞）(ULI'S, B 20：7)

「(鐘を）鳴らす」という他動詞の用法は「(鐘が）鳴る」という自動詞からの派生と考えられる。自動詞の完了形は wêze 支配でなく，hawwe 支配であり，能格動詞ではない。klokliede「鐘を鳴らす」という名詞抱合による1語の非分離の動詞があることに注意 (hy kloklet「彼は鐘を鳴らす」)。

(b) 意味的に類似した動詞で人あるいは物事が主語になるもの

主語以外では，人を示す名詞句は利害・関心を表わす名詞句，物事を示す名詞句は前置詞句として一般に現われる。

① slagje

完了形はつねに wêze 支配である。

i)「(人が物事において）うまくいく」

Is er foar it eksamen *slagge*?「彼は試験はうまくいったのですか」(Zantema 1984：916)

ii)「(物事が人にとって) うまくいく」

It *is* him net *slagge*.「それは彼にとってうまくいかなかった」(Zantema 1984：915)

☞ オランダ語では人が主語の場合には slagen を用い，物事が主語の場合には (ge-)lukken を用いる（ともに完了形は zijn 支配)。

② tinke

人が主語の場合には動作主としての意味を担って思考動詞になり，物事が主語の場合には人を表わす目的語名詞句が経験者としての意味を担って心理動詞になる傾向が強い。

i)「(人が物事・人について) …と思う，熟慮する，思い出す」

Tink oan my!「私のことを思い出してね」(Zantema 184：1053)

Tink der goed om!「そのことをよく考えなさい」(Zantema 1984：1053)

Hy *tinkt*, dat er no wer de gryp hat.「彼はまた風邪をひいたのだと思っている」(ULI'S, A 11：6)

Ik sil der nochris oer *tinke* oft ik sa'n elektrysk ding wol keapje.「そのような電気製品を買おうかもう一度考えてみることにする」(ULI'S, A 12：8)

以下の用例では目的語代名詞が前置詞を伴っていないことに注意。

Wa soe dat *tocht* ha!「そんなばかな（＝だれがそんなことを考えただろう)」(Zantema 1984：1053)

ii)「(物事・人が) 人にとって) …と思われる」

Wat *tinkt* dy dêrfan?「それについて君にはどう思えますか」(Zantema 1984：1053)

Wat *tinkt* jo?「あなたにはどう思えますか」(Bangma 1993[2]： 27)

Ja, dat *tinkt* my ek.「ええ，私にもそう思えます」(Zantema 1984：1053)

③ misse

i)「人が物事・人を欠く，なくて困る」

Ik *mis* noch ien ding.「私はまだひとつ足りないものがある」(ULI'S, A 12：8)

ii)「物事・人が（人にとって）欠けている・不備である・なくて困る」

Hy *mist* nea yn 'e tsjerke.「彼はけっして教会で姿が見えないことはない」(Zantema 1984：620)

Dat kin net *misse*.「それは疑いなくそうだ」(Zantema 1984：620)

Dat *mist* dy.「それは君の思い違いだ」(Zantema 1984：620)

En wy ek, as it my net *mist*.「もし私の間違いでなかったら」(ULI'S, A 4：8)

(5) 再帰・使役・非人称構文における用法の可否

代表的な動詞についてオランダ語とドイツ語との比較を交えながら具体例を示す。

① lêze「読める，読む」

Dit artikel *lêst* slim.「この論文は読みにくい」

*Dit artikel *lêst* {*him*/*himsels*} slim.「同上」

Dit artikel *lit* {*him*/*himsels*} slim lêze.「同上」

☞ オ. Dit artikel *leest* moeilijk.「同上」
*Dit artikel *leest zich* moeilijk.「同上」
Dit artikel *laat zich* moeilijk *lezen*.「同上」

ド. *Dieser Artikel *liest* schwer.「同上」
Dieser Artikel *liest sich* schwer.「同上」
Dieser Artikel *läßt sich* schwer *lesen*.「同上」

② ferkeapje「売れる，売る」

Dit boek *ferkeapet* goed.「この本はよく売れる」

*Dit boek *ferkeapet* {*him*/*himsels*} goed.「同上」

Dit boek *lit* {*him*/*himsels*} goed *ferkeapje*.「同上」

☞ オ. Dit boek *verkoopt* goed.「同上」
*Dit boek *verkoopt zich* goed.「同上」
Dit boek *laat zich* goed *verkopen*.「同上」

ド. *Dieses Buch *verkauft* gut.「同上」
Dieses Buch *verkauft sich* gut.「同上」
Dieses Buch *läßt sich* gut *verkaufen*.「同上」

③ spjalte「割れる，割る」

Dit hout *spjalt* maklik.「この材木は割りやすい」

*Dit hout *spjalt* {*him*/*himsels*} maklik.「同上」

Dit hout *lit him* maklik *spjalte*.「同上」

☞ オ. Dit hout *splijt* gemakkelijk.「同上」
*Dit hout *splijt zich* gemakkelijk.「同上」
Dit hout *laat zich* gemakkelijk *splijten*.「同上」

ド. *Dieses Holz *spaltet* leicht.「同上」
Dieses Holz *spaltet sich* leicht.「同上」
Dieses Holz *läßt sich* leicht *spalten*.「同上」

④ skriuwe「書ける，書く」

Dy pinne *skriuwt* it bêst.「そのペンはもっとも書きやすい」

*Dy pinne *skriuwt* {*him*/*himsels*} it bêst.「同上」

*Dy pinne *lit* {*him*/*himsels*} it bêst *skriuwe*.「同上」

Mei dy pinne *skriuwt it* it bêst.「同上」

*Mei dy pinne *skriuwt it* {*him*/*himsels*} it bêst.「同上」

*Mei dy pinne *lit it* {*him*/*himsels*} it bêst *skriuwe*.「同上」

*Mei dy pinne *is it it bêst skriuwen*.「同上」

☞ オ. Die pen *schrijft* het beste.「同上」
*Die pen *schrijft zich* het beste.「同上」
*Die pen *laat zich* het beste *schrijven*.「同上」
Met die pen *schrijft het* het beste.「同上」
*Met die pen *schrijft het zich* het beste.「同上」
*Met die pen *laat het zich* het beste *schrijven*.「同上」
*Met die pen *is het* het beste *schrijven*.「同上」

ド. Die Feder *schreibt* am besten.「同上」
Die Feder *schreibt sich* am besten.「同上」
Die Feder *läßt sich* am besten *schreiben*.「同上」
*Mit der Feder *schreibt es* am besten.「同上」
Mit der Feder *schreibt es sich* am besten.「同上」

Mit der Feder *läßt es sich* am besten *schreiben*.「同上」
*Mit der Feder *ist es* am besten *schreiben*.「同上」

⑤ bakke「(パン・ケーキなどが) 焼ける，(同左を) 焼く」

*Myn ûne *bakt* net mear regelmjittich.「私のオーブンはもうちゃんと焼けない」

*Myn ûne *bakt* {*him/himsels*} net mear regelmjittich.「同上」

*Myn ûne *lit* {*him/himsels*} net mear regelmjittich *bakke*.「同上」

*Mei myn ûne *bakt it* net mear regelmjittich.「同上」

*Mei myn ûne *bakt it* {*him/himsels*} net mear regelmjittich.「同上」

*Mei myn ûne *lit it* {*him/himsels*} net mear regelmjittich *bakke*.「同上」

*Mei myn ûne *is it* net mear regelmjittich *bakken*.「同上」

☞ オ. *Mijn oven *bakt* niet meer regelmatig.「同上」
*Mijn oven *bakt zich* niet meer regelmatig.「同上」
*Mijn oven *laat zich* niet meer regelmatig *bakken*.「同上」
*Met mijn oven *bakt het* niet meer regelmatig.「同上」
*Met mijn oven *bakt het zich* niet meer regelmatig.「同上」
*Met mijn oven *laat het zich* niet meer regelmatig *bakken*.「同上」
*Met mijn oven *is het* niet meer regelmatig *bakken*.「同上」

ド. Mein Ofen *bäckt* nicht mehr regelmäßig.「同上」
*Mein Ofen *bäckt sich* nicht mehr regelmäßig.「同上」
*Mein Ofen *läßt sich* nicht mehr regelmäßig *backen*.「同上」
*Mit meinem Ofen *bäckt es* nicht mehr regelmäßig.「同上」
*Mit meinem Ofen *bäckt es sich* nicht mehr regelmäßig.「同上」
Mit meinem Ofen *läßt es sich* nicht mehr regelmäßig *backen*.「同上」
*Mit meinem Ofen *ist es* nicht mehr regelmäßig *backen*.「同上」

⑥ wenje「住む (自動詞)」

*Dit hûs *wennet* goed.「この家は住みやすい」

*Dit hûs *wennet* {*him/himsels*} goed.「同上」

*Dit hûs *lit* {*him/himsels*} goed *wenje*.「同上」

Yn dit hûs *wennet it* goed.「同上」

*Yn dit hûs *wennet it* {*him/himsels*} goed.「同上」

*Yn dit hûs *lit it* {*him/himsels*} goed *wenje*.「同上」

Yn dit hûs *is it* goed *wenjen*.「同上」

☞ オ. *Dit huis *woont* goed.「同上」
*Dit huis *woont zich* goed.「同上」
*Dit huis *laat zich* goed *wonen*.「同上」
In dit huis *woont het* goed.「同上」
*In dit huis *woont het zich* goed.「同上」
*In dit huis *laat het zich* goed *wonen*.「同上」
In dit huis *is het* goed *wonen*.「同上」

ド. *Dieses Haus *wohnt* gut.「同上」
*Dieses Haus *wohnt sich* gut.「同上」
*Dieses Haus *läßt sich* gut *wohnen*.「同上」
*In diesem Haus *wohnt es* gut.「同上」
In diesem Haus *wohnt es sich* gut.「同上」
In diesem Haus *läßt es sich* gut *wohnen*.「同上」
*In diesem Haus *ist es* gut *wohnen*.「同上」

⑦ bewenje「…に住む（他動詞）」

*Dit hûs *bewennet* goed.「この家は住みやすい」

*Dit hûs *bewennet* {*him/himsels*} goed.「同上」

Dit hûs *lit* {*him/himsels*} goed *bewenje*.「同上」

*Yn dit hûs *bewennet it* goed.「同上」

*Yn dit hûs *bewennet it* {*him/himsels*} goed.「同上」

*Yn dit hûs *lit it* {*him/himsels*} goed *bewenje*.「同上」

*Yn dit hûs *is it* goed *bewenjen*.「同上」

☞ オ. *Dit huis *bewoont* goed.「同上」
*Dit huis *bewoont zich* goed.「同上」
Dit huis *laat zich* goed *bewonen*.「同上」
*In dit huis *bewoont het* goed.「同上」
*In dit huis *bewoont het zich* goed.「同上」
*In dit huis *laat het zich* goed *bewonen*.「同上」
*In dit huis *is het* goed *bewonen*.「同上」

ド. *Dieses Haus *bewohnt* gut.「同上」
Dieses Haus *bewohnt sich* gut.「同上」

Dieses Haus *läßt sich* gut *bewohnen*.「同上」
*In diesem Haus *bewohnt es* gut.「同上」
*In diesem Haus *bewohnt es sich* gut.「同上」
*In diesem Haus *läßt es sich* gut *bewohnen*.「同上」
*In diesem Haus *ist es* gut *bewohnen*.「同上」

⑧ sitte「すわっている」

Dizze sofa *sit* noflik.「このソファはすわりやすい」
*Dizze sofa *sit* {*him*/*himsels*} noflik.「同上」
*Dizze sofa *lit* {*him*/*himsels*} noflik *sitte*.「同上」
Op dizze sofa *sit it* noflik.「同上」
*Op dizze sofa *sit it* {*him*/*himsels*} noflik.「同上」
*Op dizze sofa *lit it* {*him*/*himsels*} noflik *sitte*.「同上」
Op dizze sofa *is it* noflik *sitten*.「同上」

☞ オ. Deze sofa *zit* prettig.「同上」
*Deze sofa *zit zich* prettig.「同上」
*Deze sofa *laat zich* prettig *zitten*.「同上」
Op deze sofa *zit het* prettig.「同上」
*Op deze sofa *zit het zich prettig*.「同上」
*Op deze sofa *laat het zich* prettig *zitten*.「同上」
Op deze sofa *is het* prettig *zitten*.「同上」

ド. *Dieses Sofa *sitzt* angenehm.「同上」
Dieses Sofa *sitzt sich* angenehm.「同上」
*Dieses Sofa *läßt sich* angenehm *sitzen*.「同上」
*Auf diesem Sofa *sitzt es* angenehm.「同上」
Auf diesem Sofa *sitzt es sich* angenehm.「同上」
Auf diesem Sofa *läßt es sich* angenehm *sitzen*.「同上」
*Auf diesem Sofa *ist es* angenehm *sitzen*.「同上」

⑨ iepengean「開く」/iepenje「開く，開ける」

Dizze doar *giet* automatysk *iepen*.「このドアは自動的に開く」
㊟Dizze doar *iepenet* automatysk.「同上」
*Dizze doar *iepenet* {*him*/*himsels*} automatysk.「同上」
*Dizze doar *lit* {*him*/*himsels*} automatysk *iepenje*.「同上」

☞ オ. Deze deur *gaat* automatisch *open*.「同上」

㊟Deze deur *opent* automatisch.「同上」
*Deze deur *opent zich* automatisch.「同上」
*Deze deur *laat zich* automatisch *openen*.「同上」
ド. Die Tür *geht* automatisch *auf*.「同上」
㊟Die Tür *öffnet* automatisch.「同上」
Die Tür *öffnet sich* automatisch.「同上」
Die Tür *läßt sich* automatisch *öffnen*.「同上」

⑩ 同上

Troch de hurde wyn *is* de doar *iepengien*.「強い風でドアが開いた」
*Troch de hurde wyn {*is/hat*} de doar *iepene*.「同上」
*Troch de hurde wyn *hat* {*him/himsels*} de doar *iepene*.「同上」

☞ オ. Door de harde wind *is* de deur *opengegaan*.「同上」
*Door de harde wind {*is/heeft*} de deur *geopend*.「同上」
*Door de harde wind *heeft zich* de deur *geopend*.「同上」
ド. Durch den heftigen Wind *ist* die Tür *aufgegangen*.「同上」
*Durch den heftigen Wind {*ist/hat*} die Tür *geöffnet*.「同上」
Durch den heftigen Wind *hat sich* die Tür *geöffnet*.「同上」

⑪ *tichtgean*「閉まる」/*slute*「閉まる，閉める」

Dizze doar giet automatysk *ticht*.「このドアは自動的に閉まった」
㊟Dizze doar *slût* automatysk.「同上」
*Dizze doar *slût* {*him/himsels*} automatysk.「同上」
*Dizze doar *lit* {*him/himsels*} automatysk *slute*.「同上」

☞ オ. Deze deur *gaat* automatisch *dicht*.「同上」
㊟Deze deur *sluit* automatisch.「同上」
*Deze deur *sluit zich* automatisch.「同上」
*Deze deur *laat zich* automatisch *sluiten*.「同上」
ド. Diese Tür *geht* automatisch *zu*.「同上」
㊟Diese Tür *schließt* automatisch.「同上」
Diese Tür *schließt sich* automatisch.「同上」
Diese Tür *läßt sich* automatisch *schließen*.「同上」

⑫ 同上

Troch de hurde wyn is de doar *tichtgien*.「強い風でドアが閉まった」
*Troch de hurde wyn {*is/hat*} de doar *sletten*.「同上」

*Troch de hurde wyn *hat* {*him*/*himsels*} de doar *sletten*.「同上」

☞ オ. Door de harde wind *is* de deur *dichtgegaan*.「同上」
*Door de harde wind {*is*/*heeft*} de deur *gesloten*.「同上」
*Door de harde wind *heeft zich* de deur *gesloten*.「同上」

ド. Durch den heftigen Wind *ist* die Tür *zugegangen*.「同上」
*Durch den heftigen Wind {*ist*/*hat*} die Tür *geschlossen*.「同上」
Durch den heftigen Wind *hat sich* die Tür *geschlossen*.「同上」

＊本稿は筆者の以下の論文に続く西フリジア語の文法構造の記述である。
「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44－1．第 85 号．1995．37－81)
「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」(北海道大学文学部紀要 44－2．第 86 号．1995．43－111)
「西フリジア語の文法構造—冠詞，名詞，形容詞—」(北海道大学文学部紀要 45－1．第 88 号．1996．21－81)
「西フリジア語の文法構造—代名詞—」(北海道大学文学部紀要 45－2．第 89 号．1997．79－176)
「西フリジア語の文法構造—数詞，副詞，der—」(北海道大学文学部紀要 45－3．第 90 号．1997．171－246)
「西フリジア語の文法構造—前置詞と後置詞 (1)—」(北海道大学文学部紀要 46－1．第 91 号．1997．23－62)
「西フリジア語の文法構造—前置詞と後置詞 (2)—」(北海道大学文学部紀要 46－2．第 92 号．1997．41－64)
「西フリジア語の文法構造—接続詞—」(北海道大学文学部紀要 46－3．第 93 号．1998．65－121)
「西フリジア語の文法構造—動詞 (1)—」(北海道大学文学部紀要 47－2．第 95 号．1998．21－97)
「西フリジア語の文法構造—動詞 (2)—」(北海道大学文学部紀要 47－3．第 96 号．1998．53－72)
「西フリジア語の文法構造—動詞 (3)—」(北海道大学文学部紀要 47－4．第 97 号．1999．89－124)
記述上の問題点については筆者の次の論文を参照。
「西フリジア語文法記述の問題点」(北海道大学文学部紀要 44－3．第 87 号．1996．41－107)

＊本稿は平成 11 年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。
研究課題：「ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述—西ゲルマン語類型論に向けて」．基盤研究(C)(2)．課題番号 10610491(研究代表者　北海道大学文学部助教授　清水　誠)